

## 環境政策 環境に配慮した産業の活気があふれ、国際貢献するまちをめざす

### 【環境政策の目標】〔総合的目標〕

地域環境や地球環境を保全するためには、環境負荷の低減に寄与する技術の開発や産業の振興が不可欠です。また、いずれの産業においても環境対策・環境配慮が行われ、環境の保全・創造を基調とする社会経済活動が営まれることが重要であり、これらの結果が地域経済の活性化や雇用創出につながるものが大切です。以上のような環境と経済の好循環の実現、都市と産業との共生に向けて、国内はもとより海外への技術移転や人の交流等を進めることで、環境技術による国際貢献を果たし、環境保全を支える産業と社会の活気があふれるまちをめざします。

### 総合的な評価に用いる指標

施策の方向	指標	総合的な評価に用いるもの
V-1 環境関連産業の振興・育成	ゼロ・エミッション工業団地への視察者数	○
	低CO <sub>2</sub> 川崎ブランドの認定件数	○
V-2 環境技術による国際貢献の推進	海外からの環境技術視察・研修の受入人数	○
	環境に係る国際会議・イベント等実施状況	
	環境技術開発に向けた事業者、大学、研究機関等との連携による共同研究の件数と実施内容	○

## 施策の方向 V-1 環境関連産業の振興・育成

指標	目標・現状・指標がめざす方向
ゼロ・エミッション工業団地への視察者数	【基準年度】 3,890 人（2009 年度） 【指標がめざす方向】 多いほうが良い
低CO <sub>2</sub> 川崎ブランドの認定件数	【基準年度】 47 件（2013 年度）※ 【指標がめざす方向】 多いほうが良い

※2014 年度実績から指標に追加したため、その前年度の 2013 年度を基準年度としています。

目標・指標の達成状況	指標評価	方向評価
■指標：ゼロ・エミッション工業団地への視察者数 3,877 人（対前年度：431 人増加、対基準年度：少ない）	2*	4
■指標：低CO <sub>2</sub> 川崎ブランドの認定件数 累計認定数 55 件（対前年度：8 件増加、対基準年度：多い）	5*	

[方向評価は「\*」の付いた指標評価の平均値をもとに評価しています]

## 現 状

### ■ゼロ・エミッション工業団地への視察者数

今日的な環境問題の解決に向けては、市域における取組にとどまらず、関係する行政機関や近隣自治体はもとより、国連と協調し国外との連携も必要となります。

市では、国際連合環境計画連携事業や九都県市首脳会議等を通して、多角的な取組に積極的に参加・協力すること等により、広域的な対応を推進しています。

### ■低CO<sub>2</sub>川崎ブランドの認定件数

低炭素社会の構築につながるものづくり等を応援するため、ライフサイクル全体で CO<sub>2</sub> 削減に貢献している川崎発の製品・技術等を評価し広く普及する「低 CO<sub>2</sub>川崎ブランド」を 2009 年度から試行的に実施し、2012 年度から本格実施しています。

2014 年度は、8 件の製品・技術等を「低 CO<sub>2</sub>川崎ブランド」として認定するとともに、特に優れたものを「低 CO<sub>2</sub>川崎ブランド大賞」として選定し、川崎国際環境技術展などを通じて広報を行いました。

施策の方向 V-2 環境技術による国際貢献の推進

指 標	目標・現状・指標がめざす方向
海外からの環境技術視察・研修の受入人数	【目標】 現状より増やすこと 【基準年度】 1,143 人（2009 年度） 【指標がめざす方向】 多いほうが良い
環境に係る国際会議・イベント等実施状況	【基準年度】 国際環境技術展 2010 の開催ほか（2009 年度） 【指標がめざす方向】 多いほうが良い
環境技術開発に向けた事業者、大学、研究機関等との連携による共同研究の件数と実施内容	【基準年度】 環境技術産学公民連携公募型共同研究数（累積） ：12 件ほか（2009 年度） 【指標がめざす方向】 多いほうが良い

目標・指標の達成状況	指標評価	方向評価
<b>■指標：海外からの環境技術視察・研修の受入人数</b> ・エコタウン施設における受入人数は 454 人で、前年度の 387 人に比べて 67 人の増加 ・エコタウンを除く受入人数は 235 人で、前年度に比べて 204 人の減少（上記合計で 689 名） （対前年度：85 人減少、対基準年度：減少）	1*	3
<b>■指標：環境に係る国際会議・イベント等実施状況</b> 国際環境技術展 2015 等を 4 回開催（対前年度：同じ、対基準年度：多い）	4.5	
<b>■指標：環境技術開発に向けた事業者、大学、研究機関等との連携による共同研究の件数と実施内容</b> エアロゾル複合分析計のフィールド評価ほか（累計件数 45 件）（対前年度：7 件増加、対基準年度：多い）	5*	

[方向評価は「\*」の付いた指標評価の平均値をもとに評価しています]

現 状

■海外からの環境技術視察・研修の受入人数

- ・川崎エコタウン会館を中核施設として、エコタウン及びゼロ・エミッション工業団地への視察希望者の受入を実施
- ・国内からの来訪者を含めた総視察者数は 774 人
- ・中国、韓国、ベトナム、タイ、ミャンマー、オマーン、ドイツ等 454 人の海外視察受入
- ・エコタウンを除く受入人数は 235 人

■環境に係る国際会議・イベント等実施状況

- ・川崎国際環境技術展 2015  
優れた環境技術等を有する 138 団体（220 ブース）が出席  
中国・韓国等の海外からの約 220 人の来場を含め合計 11,300 人が来場  
優れた環境技術の海外への移転に向けた海外企業と出展者とのビジネスマッチングを実施
- ・アジア・太平洋エコビジネスフォーラム
- ・日中韓 3 か国環境研究機関長会合
- ・MSWI（固体廃棄物イニシアチブ）推進会議

■環境技術開発に向けた事業者、大学、研究機関等との連携による共同研究の件数と実施内容

2014 年度の共同研究実施件数は 7 件、実施内容としては次のとおりです。

- ・エアロゾル複合分析計のフィールド評価
- ・直流給電方式による省エネ型電源に関する研究

- ボトムアップ型まちづくり手法による低炭素商店街の実現手法検討
- 200℃未満の未利用熱を利用した発電システムの導入可能性調査研究
- 気候変動適応策等へのフェーズドアレイ気象レーダ活用に向けた研究
- 環境情報・写真データを用いたコミュニティ活性化支援に関する共同研究～川崎タイム・マシン～「環境」×「川崎の過去・現在」を対話する
- 既設太陽光パネルの洗浄方法と発電効率に関する実証

#### **国際連合環境計画「UNEP」連携協調事業**

産業と環境が調和した接続可能な都市モデルを形成するため、国際環境施策を推進しています。

UNEPと連携した「アジア・太平洋エコビジネスフォーラム」の開催や、友好都市である中国瀋陽市をはじめ海外からの視察・研修の受け入れなど市内企業の優れた環境技術や本市の環境保全の経験を活かした国際貢献を進めました。